



日本一低い谷中分水界のあるまち

生郷

第55号 2025.11.20
発行 生郷自治振興会
Tel/Fax 0795-82-2666
URL <https://ikusato-js.com>



「生郷の魅力」

二〇一一年に山と溪谷社から出版された「日本の分水嶺」の著者堀公俊さんが、その本のはじめの中でこんなことを名指しで書いている。

(以下原文)そもそも分水嶺がどこにあるのかは、肝心の分水嶺がある地元ですら知られていないことが多い。以前に兵庫県旧氷上町(現在は丹波市)が、分水嶺の所在する市町村がどのように町づくりにかかっているかという実態調査をしている。ところが町づくりのころか、かなりの市町村で「住民の認識なし(薄い)」「という調査結果に終わっている(以下略)」

前書きが長くなりましたが、ここ生郷に生活して「あなたにとって生郷の魅力は・・・?」と尋ねられたらどんなことを思いうかべますか。「そんなこと考えたことがない」と言われる方がほとんどだと思いますが、「生郷にこんな素晴らしい所があるのか」「自治会にも昔から伝え守られていることがたくさんある」「ひたむきにこつこつとやり続けている人もいる」と改めて生郷地域のすばらしさを感じられている方も数多くおられます。

こんなこと あんなこと

11月から3月の予定(自治会発)

- 11月**
 (地頭)・金刀比羅七五三(11/9)・新嘗祭(11/22)
 (新町)・防犯青少年健全育成学習会
 (領町)・囲碁ボール大会(11/2)
 ・人権学習会(11/25)
 (北野)・環境整備事業
 (大崎)・生活水路清掃
 (横田)・伊尼神社(稲初穂)
 (稲継)・カードゲーム大会(11/29)
- 12月**
 (南町)・人権学習会
 (市辺)・自治会内クリーン活動(12/14)
- 1月**
 (地頭)・歳旦祭(1/1) ・とんど祭り(1/11)
 (新町)・とんど焼(1/12)
 (領町)・とんど(1/11)
 (南町)・とんど焼
 (北野)・とんど焼(焼き芋大会)
 (大崎)・次年度役員選挙(1/28)
 (横田)・正月祭礼(1/1) ・とんど焼(1/11)
 ・自治会役員選挙(1/11)
 (市辺)・とんど(1/10) ・水定め(1/11)
- 2月**
 (地頭)・祈年祭(2/17) ・役員選挙(2/15)
 (新町)・自治会長選挙(2/15)
 (大崎)・墓地、共有林下刈り(2/15)
 (横田)・節分祭(2/1) ・初午(2/3)
 (市辺)・自治会選挙(2/1)
- 3月**
 (地頭)・八役引継ぎ会(3/8)
 (大崎)・新年度自治会初総会(3/22)
 (横田)・春の溝掃除(3/8) ・新旧役員引継ぎ(3/8)
 ・宮当渡し(3/15)
 (市辺)・意春祭(3/8)

中学二年生では「トワイやるウィーク」で、東小の四年生は「ミニトワイやる」で地域の方々のかかわりを学ぶ機会があります。また、小学校低学年では家族を中心に、中学年では任んでいる地域を中心に、高学年では広く社会に向けて地域の魅力や課題を学んでいきます。豊かな自然、各自治会で伝え引きつなげてきた行事や営み、趣味やフィールドワークを楽しんでいる人のこだわりや技などには、まだまだ知り得ていない生郷の魅力がたくさんあります。

世代が変わり地域がますます発展する中で、改めて地域(生郷)の魅力(人・もの・こと)に目を向け、地域や自治会の行事・活動を通して魅力再発見の活動を広げていきたいと思います。

(魅力づくり委員会)



氷上インターを望む

令和七年度第一回

生郷地域支えあい推進会議



「少子高齢化」「人口減少」が叫ばれかけたのは随分以前からですが、それによる日常生活での問題や町づくりでの課題が社会問題となっています。行政での対策に加えて、その地域に住む者同士が互いにかかわり合い、つながり合って支えあう活動が必要になっていきます。三年前から生郷でも支えあい推進会議を立ち上げ、各自治会でもその取り組みが広がってきています。各自治会の自治会役員さん・民生委員さん・民生協力員さんを中心に、ご近所さん同士が互いに支えあえる地域を目指して、その下地となる交流環境に取り組みられています。近くに頼れる人がいたり気にかけてくれる人がいるだけで、安心安全な住みよい地域になると確信します。



2025.6.28 交流会館

次回第2回生郷地域支えあい推進会議は
11月28日(金) 19時30分から生郷交流会館で開催します

六月二十九日(日)

「お口は健康のはじまり」と題して、あせい歯科医院長の阿瀬井宏成先生にご講演いただきました。

十歳頃までに完成すると言われる上顎骨の成り立ちが、脳をはじめ全身の各部の成長・健康に大きく影響していて、「全身の健康はここから」と言っても過言ではないということでした。健康・成長について初耳の話がたくさんあり、またこういう機会をつくり多くの人に気づいてもらいたいと思います。



環境整備

今年も丹波医療センターの環境整備に全市から集まり、草刈りや除草作業が実施されました。病院の所在が生郷であることから、毎年生郷地域からも多数の方が参加いただいています。

また、七月十二日には認定こども園いくさとの裏山の環境整備が実施されました。

秋になったら子どもたちが楽しむだろうと大きなどんぐりのなる木を残して、斜面に伸びた草木がすっきりと刈り取られました。



6.14

交流会館外壁工事 完了

七月二十八日から九月四日までを工期に、会館の外壁工事をを行いました。

以前から指摘のあった白壁の亀裂・木部壁の腐食・屋根のずれ・軒部分の柱の腐食等、普段は見慣れていて気がつかない老朽箇所を中心に会館の修理とメンテナンスを行いました。総工費二、九四八、〇〇〇円(うち二、三一〇、〇〇〇円)は市の交付金特別分より支出)工事は八月中に完了し、新築当時のきれいな外壁によみがえりました。



ほってあげない 身近な社会問題

◎新たな空き家を発生させない
◎発生してしまった空き家が管理不全状態となることをいせ

これらは九月七日に開催された空き家対策講習会で聞いた空き家対策の課題です。短く言えば、空き家の増加を食い止め、少しでも有効活用するということになる。農業委員さんからも再三訴えられている耕作放棄地についても同じことが言える。

今も推定約二五〇〇人の来客

第二九回生郷まつり

前年度二月から生郷まつり準備委員会を立ち上げ、例年七月末土曜日の実施日に向けて準備をしてきました。自治会長・実行委員会の皆さんはじめ、自治会の皆さん・地域の事業所、企業にはたくさんのお賛助をいただき、皆さんの期待にそえる夏まつりを開催することが出来ました。



九月七日には実行委員会でも事後アンケート等をもとに今回の生郷まつりの総括を行いました。企画・運営・会場設営等次回の生郷まつりに向けた課題も明確になりました。十月十六日第一回準備委員会（12/11第二回予定）を開き次回に向けて計画を進めています。



令和7年度 生郷まつり特別会計 決算書				
令和7年4月1日～令和8年3月31日				
		収入金額	3,512,609	円
		支出金額	3,191,805	円
		差引金額	320,804	円
次年度に繰越				
収入の部 (単位:円)				
科	目	本年度予算額	本年度決算額	比較
1	繰越金	815,936	815,936	0
	1 繰越金	815,936	815,936	0
				前年度繰越金
2	賛助金	2,100,000	2,074,000	△ 26,000
	1 自治会	1,732,000	1,539,000	△ 193,000
	2 各種団体	368,000	535,000	167,000
				各種団体、事業所
3	交付金	560,000	551,000	△ 9,000
	1 交付金	560,000	551,000	△ 9,000
				丹波市観光協会
4	繰入金	0	0	0
	1 繰入金	0	0	0
5	雑収入	75,000	71,673	△ 3,327
	1 雑収入	75,000	71,673	△ 3,327
				出店料(70,000)まつり募金(1,451)預金利息(222)
収入合計		3,550,936	3,512,609	△ 38,327
支出の部 (単位:円)				
科	目	本年度予算額	本年度決算額	比較
1	総務費	942,000	779,618	△ 162,382
	11 会議費	120,000	0	△ 120,000
	12 食糧費	150,000	113,662	△ 36,338
	13 印刷費	30,000	91,731	61,731
	14 消耗品費	7,000	16,410	9,410
	15 燃料費	3,000	0	△ 3,000
	16 警備費	450,000	422,400	△ 27,600
	17 通信費	20,000	26,245	6,245
	18 保険費	110,000	105,620	△ 4,380
	19 用品費	50,000	0	△ 50,000
	20 需要費	2,000	3,550	1,550
				残高証明、振込手数料 ほか
2	余興費	1,370,000	1,323,084	△ 46,916
	21 花火打上費	1,000,000	1,005,000	5,000
	22 音響	100,000	127,500	27,500
	23 材料費	0	0	0
	24 出演謝礼	70,000	20,960	△ 49,040
	25 景品費	200,000	169,624	△ 30,376
3	広告費	180,000	170,403	△ 9,597
	31 広告印刷費	150,000	147,180	△ 2,820
	32 広告手数料	30,000	23,223	△ 6,777
4	会場費	820,000	878,700	58,700
	41 工事費	600,000	687,500	87,500
	42 会場手数料	0	0	0
	43 謝礼金	220,000	191,200	△ 28,800
	44 使用料	0	0	0
5	助成金	40,000	40,000	0
	51 助成金	40,000	40,000	0
6	予備費	198,936	0	△ 198,936
	61 予備費	198,936	0	△ 198,936
支出合計		3,550,936	3,191,805	△ 359,131

8/31

第十二回

生郷ふるさと音楽祭

今年には東小学校鼓笛隊・氷上中学校吹奏楽部・柏原高校吹奏楽部・氷上吹奏楽団の四団体に出演いただきました。毎年夏休み中に開催するこのふるさと音楽祭を楽しみにされている皆さんで満席になりました。それぞれ地元の皆さんの素晴らしい演奏に聴きいっていました。また、音楽祭を通して、音楽を愛する団体が交流するいい機会となりました。



第58代東小学校鼓笛隊



氷上中学校吹奏楽部



氷上吹奏楽団



柏原高校吹奏楽部

しんこうかい

お知らせ

- 第2回生郷地区支えあい推進事業
11/28(金)
- コミュニティカフェ「いっ茶丹」
毎月第2日曜日 10時～12時
- 第2回生郷まつり準備委員会
12/11(木)
- 年末大掃除 12/21(日)
- 冬季生郷塾
12/26(金)・1/5(月)・1/6(火)
- 年末年始交流会館閉館日
12/29(月)～1/4(日)

生郷アートフェスタ 10.25～26



舟座のこじ

荻野雄一郎（本郷）

京都に都があった織田信長の時代は、物資は陸路で運ばれていましたが、天正一〇年（一五八二年）本能寺の変で信長が倒れ、天正一一年（一五八三年）豊臣秀吉が大坂城を築き豊臣政権を樹立してより、政治・経済の中心が京都から大坂に移りました。そこで、陸路に代わるものとして、加古川の通船が考えられ始めました。

群小の領主が治めていた播磨（播州＝兵庫南西部）では、浅瀬・難所の多い加古川に高瀬舟を通すことは不可能と思われませんが、天正八年（一八五〇年）羽柴（豊臣）氏領となりました。こうした巨大な権力の背景なくしては、加古川舟運の開発は成立しなかったと言えます。播磨の年貢米を大坂へ運ぶためには、高瀬舟によって高砂へ運ぶのが最適の方法でした。

加古川に高瀬舟を通すための工事は二期に分かれます。まず、文禄三年（一五九四年）播磨内の豊臣氏領地を統括した生駒氏が、滝野から高砂に至る川底の浚渫工事を川筋の豪農たちに命じました。第二期は、池田氏の命による滝野以北の浚渫および河岸（舟着場）・高砂港の整備でした。多くの労力を要した一連の工事の中でも最も難工事だったのは、岩におおわれた滝野の鬮龍灘の掘削ではなかったかと思われます。こうして加古川筋の舟運は、本郷より滝野を中継地として高砂まで約五〇kmが完通しました。

本郷に舟座が出来たのは、慶長九年（一六〇四年）です。使われた八そうの高瀬舟は、長さ六m、幅一・二六m、深さ四〇cmで、米約一五石（約二トン）を積むことが出来ました。田畑に水を送るため加古川に井堰が設けられたため、農繁期の舟の運航は不可能で、運航期間は米作等の農業に支障のない秋の彼岸（9/23頃）から翌年の八十八夜（9/22頃）まででした。

本郷から出る舟はやや小型で、積荷を滝野で中継し、滝野から高砂までは大型の高瀬舟が運航していました。ただ、領主の米等は高砂の大名蔵まで直接運んだとも言われています。

積荷の主なもの米・大豆・薪炭ほかで、上り舟は塩・干鰯（ほしか）・昆布などで、明治の頃には灯油も積みました。由良川流域、福知山方面の物資は、陸路で本郷まで行き来しました。舟座は入札により落札者が請け負い、請負人は水路の保全をし、料金を取って舟の運行と荷物の輸送にあたり、幕府に運上金を納めました。

滝野から高砂までの距離は約三七kmで、所要時間は水量にもよりますが平均四〜五時間。上滝野や新町を早朝四時頃出発すると高砂へは朝の八時ごろに着きました。帰りは舟を引くので、高砂を午前十時頃に出て、帰着は翌日の夕方でした。水の深い所は筥（むしろ）の帆を張って走り、台風の時以外は雨の日でも下ったようです。

高瀬舟の乗組みは、加古川の場合、船頭（オヤジ）とトモ乗りと中乗りの三名です。船頭は舟の責任者で積荷の差配と水先をつとめ、トモ乗りは船尾で櫂（ろ）を押し、舟の中央で櫂（かい＝オール）を漕いだり、米問屋の蔵からの荷積み任せられた中乗りは一番の重労働でした。

河口に近い流れの緩やかな所は、筥（むしろ）の帆を上げ、櫂を押ししてのんびり帰れますが、浅

瀬になると帆は使えず、舟を引いて上がることになり。オヤジ一人が舟に残り、他の二人は河原の綱道をたどって舟を引きます。手には手どらをはめ、すねあて・胸あてをつけて四つ這いになって引くその格好が猿に似ているため、引手は「サル」と俗称されました。午前十時ごろに高砂を出た舟は、室山・大島あたりで一泊し、翌日の夕方に河岸に帰着しますが、サルたちは昼食時以外は引きっぱなしだったようです。急な浅瀬になるとオヤジは水中に入り肩に舟を当てる持ち上げました。もどり舟は同じ河岸から出ている四〜五そうが一緒に帰り、難所は力を合わせて越えました。その指図をする船頭を「オヤジ頭」と言いました。

慶長九年（一六〇四年）より物資の集散地としてにぎわった本郷も、明治三十二年（一八九九年）阪鶴鉄道（現JR福知山線）の開通により約三百年にわたる舟座の幕を閉じました。



三つ池をめぐり



ほくは高谷川にすむアオサギのあおちゃん。毎日、食べ物を探してあっちこっち飛んでいるよ。よく行くのは三つの池

千代田池と玉ノ池、そして調整池。調整池は工業団地のそばにある池だよ。

いそへ神社にお参りをして、水分けフィールドミュージアムと神社の間の道を行くと、「千代田の小径」という看板が現れるよ。さらに進むと手作りのベンチやテーブルがあるんだ。その近くの浅い所で小魚を探すんだ。目を上げると桜が満開近くで見る桜もきれいで、池の向こうに見える桜もきれいだよ。福田寺の桜も見えるし、いいところなんだ。秋には近くのフジバカマにアサギマダラがやってきているよ。南の国への旅の途中に寄ったのかな。千代田池のほとりからは夕日がきれいなんだよ。ほくは丹波で一番だとも思っている。この千代田池はこれから二、三年大工事されるんだって。水面に映るあの夕日がしばらく見られなくてさみしいなあ。

神社の境内の茶屋の前ではコーヒーを手にして休んでいる人がいるよ。おいしいだろうけど、僕は魚の方がいいなあ。散歩に来ていた人が、千代田の小径から鹿柵の扉を開け、山へ入っていくんだ。よく行くのかなとあわててその人を追っていくと、鳳翔寺の裏に出たよ。鳳翔寺に寄っていたので、ほくは大きな木のてっぺんに止まって様子を眺めたんだ。木のそばにある看板を読んでいる。ツガという木で、お寺が建ったところに植えられたんだって。その木はおよそ三四〇歳なんだ。

すごいね。「すべそば」もある木も同じなんです。「ご住職が話してる。コウヨウザンという木らしいよ。天を突くように空へ伸びている。この木もお寺ができた時からあるんだって。木の上から西の方を眺めると、篠ヶ峰、白山や弘浪山などが見えるよ。ここからの景色を見ると思わず深呼吸をしたくなるんだ。

ほくはいつも鳳翔寺から高谷川にかかる藤ノ木橋へ飛んでいくんだ。藤の花はつぼみを膨らませているよ。藤ノ木橋から川沿いのトレイルロードに沿って下流へ行くと、木の名前を書いた白い札があちらこちらにつけられている。ヤマモモの上でひと休みし、おおかみ橋を渡り上流へ行くよ。すぐに玉ノ池だ。ひらひらと黒いチョウ、ジャコウアゲハが土手の上を飛んでいる。ウマノスズクサがたくさんあるのでそこに卵を産んでるよ。ウマノスズクサはジャコウアゲハの幼虫の大好物なんだって。夏にはラッパのようになったおもしろい花をさかせるよ。



玉ノ池では、カイツブリが巣を作り始めてるよ。つがい協力して水草を運び浮巣を作るんだ。くちばしで上手に運んでるよ。親鳥はこの巣で二〇日間あまり卵をあたため、ひなの誕生を待ってる。

生まれてすぐのひなは親の羽の中に入り、頭だけ出している姿がかわいいよ。おんびして泳ぐなんてすごいね。

ほくが浅い所で小魚を食べていると、フェンスに青い鳥がとまってジーっと水の中を覗いてる。と思う間もなく、サーっと水の中に入って魚をくわえる。すごい早わざだよ。

調整池まで行ってみよう。池までひとつ飛び。池岸のアメリカフウの紅葉がきれいだよ。池は北の国から渡ってきたカモたちでにぎやか。そーっと降りてみると、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オオバンなどが忙しそうに泳いでる。春まではたくさんのカモたちでにぎわうんだよ。



玉ノ池にもどると、キンクロハジロがのんびりと泳いでる。ハシビロガモは一〇羽以上が集まって同じ方向にぐるぐる回っている。「ぐるぐる」で水中にあるえさの食べ物を浮き上がらせるんだって。

また様子を報告するね。